

平成29年度 第7回酒田市元気みらいワークショップ



日時 平成29年10月15日(日) 14:00~17:00

場所 希望ホール(3階)小ホール

発表者 公募に申し込んでくださった12名の方々

石垣 直美	NPO 法人職員
佐藤 卓朗	小学校教諭
大石 香里	フリーランス
加藤 亮	会社員
佐藤 和範	会社員
高橋 一枝	中学校教諭
寒河江 彩	団体職員
渋谷 正樹	団体職員
庄司 直美	主婦
樋渡 淳子	飲食店
小久保 優	地域おこし協力隊
齋藤 祐樹	自営業



コメンテーター 丸山 至	酒田市長
村上 幸太郎	酒田市教育長
伊藤 眞知子	東北公益文科大学教授
小柴 勝	酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会長
伊藤 哲哉	山形新聞取締役庄内総支社長
池田 新	松山観光バス株式会社専務取締役

ファシリテーター 遠藤智栄 氏

仙台市在住。東北各地でまちづくりやNPO、ワークショップ等を支援。

■事業提案発表会

これまで6回のワークショップを行ってきました。第1回から第4回まではメンバー同士で、第5回と第6回は職員もワークショップに加わってワークショップを行ってきました。今回はチームに分かれて検討してきた4つの事業について提案発表していただきました。

○今回の流れ

- (1) 各チームの事業提案を発表 4テーマ×20分
発表後、コメンテーターから質問や意見をいただきます
～休憩～
- (2) ポスターセッション 20分
会場後方に4テーマのポスターを掲示、
ポスターの前で質疑応答や意見交換
- (3) 席に戻って講評
- (4) 参加者のふりかえり、一言



市長あいさつ

チェックイン

ファシリテーターの遠藤さんから、元気みらいワークショップの趣旨・これまでの活動経過、本日の発表会の進め方について説明がありました。



② 本日の流れ、進め方

前半 4チームの事業提案発表

後半 ポスターセッション
 (会場後方に4つのパネルと飲み物を準備しています。)

※昨年度の提案事業の状況紹介



事前に付箋を配布しており、コメンテーターの皆さん、発表を聞いて感じたことや意見を記入してもらいます。



◆これまでのワークショップの様子 第1回

日時	場所	主な内容
第1回 6/17(土) 14:00~16:30	市役所1階 フリースペース	・目的や進め方の確認 ・意中のいいところ、気になっているところを共有 ・参加者発表



◆これまでのワークショップの様子 第2回

日時	場所	主な内容
第2回 7/1(土) 14:00~16:30	市役所1階 フリースペース	・興味のあるテーマを提案し、チームづくり ・事業の紹介など



◆これまでのワークショップの様子 第3回

日時	場所	主な内容
第3回 7/23(日) 9:30~12:00	市役所1階 フリースペース	・チームごとに提案テーマの検討 ・レクチャー：施策や政策を提案する時のポイント



◆これまでのワークショップの様子 第5回

日時	場所	主な内容
第5回 8/26(土) 14:00~16:30	市役所1階 フリースペース	・テーマに関連する部署の職員からヒアリング ・チームごとに検討

1 「地域みんなで子育て」

発表者 石垣直美さん、(庄司直美さん)



地域みんなで子育て

「地域の子育て力を向上させよう」
～コミセン活用編～

チームメンバー

♡庄司 直美 ♡石垣 直美

現状・課題

☆困っている現状

- 子育て世代...** 孤独なママが多い
子育てに自信が持てない
平日、近くに集える場がない
- 子育て世代以外...** 今どきの子育て事情がわからない
子育てを手伝える人、手伝いたい人もいるが
どうしていいかわからない

お互いが地域の人を
知らない?!

世代間交流がない!!

私たちの思い

- 地域のことをみんなで知り、誰でも知り合える場所を作る
- 地域交流の場から新たな世代間交流が生まれ、ママ達は安心して子育てができる支える人達もやりがいや生きがいにつながる

地域の子育て力が向上!!

提案内容

『交流の場として、
コミセンを活用する』

今やっていること

- 酒田市子ども・子育て支援事業計画
～つながり ひろがり わちあい みんながやく使いづらさー
 - *地域子育て応援団
 - *少子化対策地域支援事業
 - *出張つどいの広場
 - *子育てサークル
 - *子育て支援センターとタイアップ事業
 - *保育園などの地域開放事業 など
- ・平日開催でないところが多い
・回数が少ない
・限られた地区だけの開催
・支援者が少なく、体制が整っていない
- 既存の事業を利用できない人たちが
利用できる交流の場を作りたい!!**

新たに提案したいこと

- 平日にコミセンの一室が使える、その中で子育て中のママと地域の人が交流できる

子育て
平日 コミセン活用事業

- *平日の午前中にサロンを開く(週一回程度)
- *対象学区: 転勤族の多い松原・泉・富士見コミセンなど
- *活動: ママ達の地域デビューと世代間交流
- 遊びの広場...おもちゃや遊びの提供(絵本の読み聞かせ・ダンス)
- 講座: 地域の子育て事情(昔と今のちがい) 食育講座(伝統料理・今どき離乳食の作り方) ママのリフレッシュ講座 健康講座(ぎゅっとの出前講座)
- 地域のボランティア育成...託児ボランティアや子育てのお手伝い

地域と子育て世代をつなぐ
『コーディネーター』が必要!



最後に...

- 【効果】
- 短期: 地域の交流の場・遊び場が増える
 - 中期: 世代間交流ができる
安心して子育てができる
ボランティア(シニア世代)の活躍の場ができる
 - 長期: 地域の子育て力向上⇒酒田の魅力UP!

みんな、酒田が大好き♡
今、子育て中の人も子ども達も、この地域が好きで、酒田で子育てしたいと思う人が増え、定住につながる事を期待する。

2 「コミュニティセンターの利活用を通じた地域力アップ」

発表者 大石香里さん、高橋一枝さん、齋藤祐樹さん



私たちが考える現状・課題

1. 発信力が弱い

- ・利用状況が分かりにくい。
- ・開催されるイベントが分からない。

2. 地域間格差

- ・各コミセン毎の稼働率に差がある。
- ・地域へのコミットの温度差がある。

3. 利用率が低い

- ・若者・子育て世代の利用率が低い。
- ・コミセン自体への関心が希薄。

1. 発信力が弱い への提案

WEB環境のグレードアップ!!

市役所

- ・各コミセンが情報を更新しやすいシステム構築・一元化
- ・市民が利用しやすいWEBデザインの刷新・アプリ化

コミセン

- ・施設利用状況を頻繁に更新
- ・WEBシステムを大いに活用したイベントPR

市民

- ・施設利用へのハードルを下げる
- ・イベント情報を得やすく、参加しやすくする

2. 地域間格差 への提案

コミセン全体の情報共有の強化!!

コミセン全体での情報共有

コミセン研修会の積極的な開催

開催事業の報告 成功例・失敗例

意見交換・事業のブラッシュアップ

スタッフ間の連携強化

事業構築 スキルの向上

3. 利用率が低い への提案

コミセン活動プレゼン大会(仮)の開催!!

応募者条件: ◇年齢問わず! ◇個人・団体問わず!

事業対象者: ◇若者・子育て世代 ◇10代の学生・大学生

事業内容: ◇対象者が地域住民と一緒を楽しむことが事業

審査員: ◇市長・市職員 ◇コミセンスタッフ

エントリー → プレゼン → 審査 → 祝 事業化!

◎優秀者には活動資金援助 ◎協力希望者立候補

期待される効果

WEB刷新によるPR力UP!

コミセン研修会による情報共有とネットワークの構築

プレゼン大会による企画力UP!

コミセンの稼働率UP!

私たちの思い・未来ビジョン

若者・子育て世代中心の利活用増による
コミュニティセンターの活性化

持続可能な地域づくり!

ご清聴、ありがとうございました!

3 「文化の光プロジェクト」 発表者 樋渡淳子さん、佐藤卓朗さん、(佐藤和範さん)



現状・課題

- 若者が気軽に集まる場がない
 - ・文化センターの利用は高齢者が中心で、若者の利用が少ない
 - ・同世代と知り合える場があまりない。
- 若者のサークル活動の発信力がない
 - ・どのようなサークルがあるかわからない。
 - ・活動をしているのに広まらない。
 - ・サークルを作ろうと思っても 仲間の集め方がわからない。

文化センターのサークル案内 高齢者向けサークル中心 どのような活動かわかりづらい

目標

- ①文化センターと光の湊(コミュニケーションポート)をつなぎ、若者の趣味やサークルの活動のきっかけをつくる。
- ②若者の趣味やサークル活動が盛り上がり、皆さんのつながりが生まれ、若者が元気になる。

文化の光プロジェクト

文化センター・光の湊がつながる→略して文化の光
若者が酒田の文化を作っていく光となる

提案1 しかけ人ミーティングを行う

- ①若者のしかけ人を集める
20歳～40歳 サークル関係者 つながりを多く持っている人を依頼や公募で集める
- ②若者が集まるきっかけづくりの作戦を話し合う。
ex)光の湊でサークル説明会や講座
ex)若者の活動紹介コーナーの設立
ex)若者コミュニケーションスペースの設立 など
- ③実際に活動してみる。
2021年コミュニケーションポートの設立までにプレ実施

パートナーシップ
青年会議所・商工会議所:しかけ人集め
酒田市文化センター・社会教育文化課:しかけ人ミーティングの会場準備
都市デザイン課:コミュニケーションポートのスペース利用について相談
ファシリテーター:ミーティングのファシリテーションを依頼

提案2 コミュニケーションポートでの情報発信

- ①掲示板やチラシを置くスペースを作る
サークル活動のポスターを掲示 チラシも置く
- ②サークル説明会やちょっとした体験活動
サークルの合同説明会や若者が講師の講座・ワークショップ 月1回程度実施
- ③若者コミュニケーションスペースを作る
若者が気軽に集まれるスペースをつくる
またはコミュニケーションを取ることができるイベント開催

パートナーシップ
コミュニケーションポート → 文化センター
情報発信 活動のきっかけの場 → つながる → サークル活動の場

提案3 ホームページで情報発信

- ①活動の様子を写真つきで紹介
サークル一覧からリンクでつながるようにする
- ②サークルメンバー募集の情報
掲示板のように誰でも書き込める
または、募集の申請をし、担当が判断してから公開
- ③若者のサークル一覧を作る
高齢者のサークル一覧とは別にわかりやすく
サークル一覧を対象年齢別に分ける

パートナーシップ
生涯学習課:ホームページ作成・管理
社会教育文化課:サークル一覧の作成

効果

- 若者が楽しく生活でき、酒田に定住
- 若者のつながりが生まれ結婚率アップ
- 若者が酒田市の文化をつくっていくきっかけになる
- コミュニケーションポートや文化センターの若者利用が増える
- 若者の声で、若者のニーズに合った酒田市のまちづくりができる

4「バスは都市の元気の象徴!？」 発表者 寒河江 彩さん、加藤 亮さん、渋谷正樹さん



元気みらい ワークショップ

バスは都市の元気の象徴! ? 「サガエにお酒を飲ませてください」

加藤 亮・寒河江彩・渋谷正樹

何故バスなの?

● 未来の自分ごと

- これから高齢者の足の問題が大きくなるのに現状で大丈夫でしょうか。
- 子育て世代だって、子供が高校生になっても送迎が必要な状態では時間に縛られてしまいます。
- 交通渋滞の緩和・排ガス削減など環境へも配慮ができます。

困っている現状

● 現状 (バスの問題きいてみた)

- バスの利用者が少ない。(乗車密度は平均 2.2 人)
- 利用したい時間にバスがない。
- バス停があっても、どこに行けるかわからない。
- 路線バスにも税金が投入されている。

酒田市 地域公共交通 網形成計画
ほぼ完ぺきな内容だったよ。

ありたい姿

● どうすれば?

- 人を乗せたバスが町で見られること。
- バスが移動手段として選択肢となること。
- 免許や自家用車がない高齢者・学生だけではなく、サラリーマンもみんなが利用している
- 利用したい時間帯にも運航していて、目的地に行き、きちんと帰ってこられる。

こう考えました

ありたい姿になるために、まずは利用者を増やさなければ・・・

学生にもっと利用してもらいたい。

乗ることに目的を持たせられないか。

- 乗車率アップは地域活性化になる。
- バスを市民にもっと認めてもらいたい

提案内容

(何を、対象、どういう仕組みで、どうするか、テーマ関係者、パートナーシップ、担当部署など)

アイデアだし

- 乗り合いバスの定期券を作って欲しい。
- 定期券所持者への優待サービス(駐車券を還元)
- ラッピングバス停&バス停ネーミングライツ
- 商店や自治組織によるバス停の整備(屋根など)
- バス停・車中のWi-Fi利用
- 英会話バス
- 週末乗合バス

市民の意見の質的調査の実施を!

- 民間業者へ税金を投入するにしても、直営で実施するにしても、住民の足としてもっと認められるべき事業とされるべき。
- 大きな会議で少しの意見ではなく、子育てサロンや趣味のグループなど小さな枠組みで、たくさんの意見・アイデアを聞く手法を。

各チームの発表に対してコメンテーターから、コメントをいただきました

小柴 勝 氏
市街地コミュニティ振興会連絡協議会長



いいね!

池田 新
松山観光バス株式会社
専務取締役



伊藤 眞知子 氏
東北公益文科大学教授



伊藤 哲哉 氏
山形新聞取締役庄内総支社長



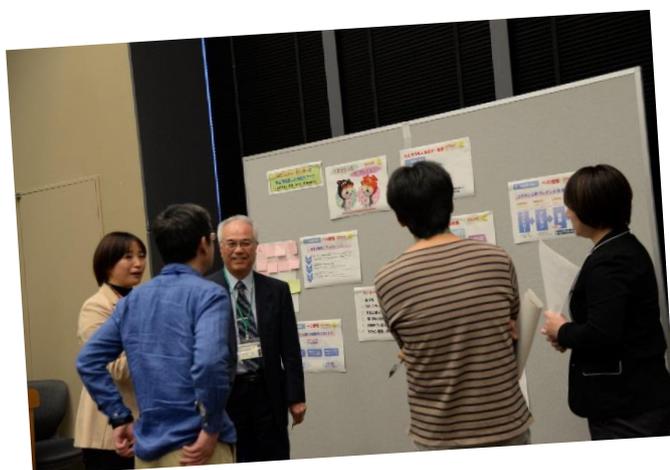
村上 幸太郎 酒田市教育長



ポスターセッション

事業提案のあと、各チームの提案ポスターを前に、「発表者」と「コメンテーター」と「発表会を見に来てくれた方」が一緒になって、ポスターセッションを行いました。

発表中にメモした付箋を貼りながら、意見交換。異なる視点や同じ悩みを抱える人の声など、さまざまな意見が飛び交いました。事業の種が更に大きく成長しているようでした。



昨年度提案事業の状況紹介

昨年度の提案事業の状況紹介を行いました。

事業化された「観光大使プロジェクト」の一環として、酒田市立第6中学校の赤塚先生から取り組みの状況について発表していただきました。



◆昨年度の提案事業の状況紹介



テーマ	提案内容	効果	事業化の状況
酒田愛不足 ～みんなが観光大使～	対象:小中学生、高校生 ・酒田をPRするために小中高生で「酒田のいいところ探し」をして、希望ホールで発表する	短期:酒田のいいところ発信 中期:観光客増 長期:ITウターン増、人口増	① 行政実施
新井田川の中心で酒田愛を叫ぶ	・新井田川に関連する団体から集まってもらって意見交換 ・観光客を対象としたイベントや景観・清掃・活用につなげる	・町がキレイになる ・愛着がわく ・酒田に帰ってきたくなる	① 行政実施
空き家キラキラ人口増加構想	・空き家を体験宿泊施設として活用 ・空き家を学生向けシェアハウスに ・空き家解体費用補助制度	・交流人口(1ヶ月滞在) ・「住みたい」と思う人が増える	① 行政実施
市民が主役のまちづくり	・酒田版人生ゲームでまちづくりに興味をもってもらう	・市政に対する市民の関心がアップ ・自発的にまちづくりに参画する市民が増える	② 民間実施(継続)
若者と施設活用	・いざいざとした表現者があふれる街へ ・旧港座などを活用したアーティストへのイベントへの助成	・施設が活用される ・賑わいの創出 ・アーティスト発表の場の増	アイデア ストック
ITエンジニアの育成	・情報プラザの復活 ・子ども達に遊びから入るプログラミング教育	短期:IT人材の増 中期:輸入産業の助けとなる(若者の仕事増) 長期:日本版シリコンバレー	② 民間実施(一部実施)

ふりかえり

市長から全体に対してコメントいただきました。

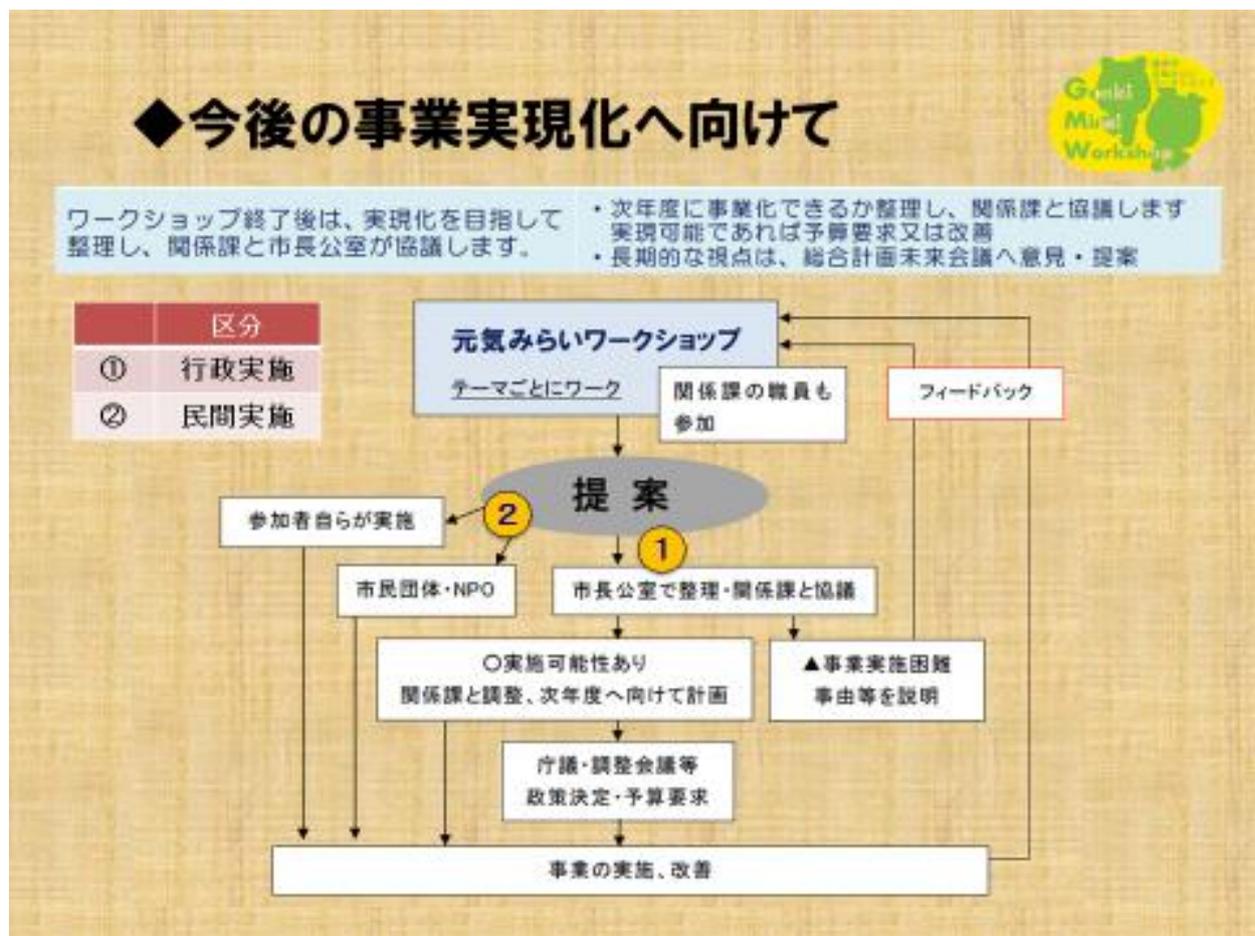


最後に、元気みらいワークショップ参加者から、ふりかえりを述べていただきました。



今後の予定

- 提案いただいた内容を、市役所の関連各課と参加者、市長公室と一緒に、「実現可能か、どのように事業化するか、既存事業へアイデアを取り入れて改善できるか」を検討します。
- 実現可能な提案については、予算要求し、来年度から形になるように進めていきます。





元気みらいワークショップ参加者のみなさま、5ヶ月間本当にありがとうございました。ワークショップは終了ですが、ここから事業化に向けた調整などが始まります。その話し合いなどにも参加していただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

